

善隣

No.551 通巻818

2024年（令和6年）9月1日発行（毎月1日発行）

2024

9



一般社団法人 国際善隣協会

善 隣

目 次

2024年 9 月号

公開講演会記録

最近のベトナム事情 矢代博昭 2

茨木のり子の脱境界的詩作

——韓国と中国への眼差し..... 金智英 13

陶々俳壇 馬場由紀子 24

中国ウォッチング 編・訳 上松玲子 26

協会通信・会員だより・同好会だより 28

2024年 9 月の行事予定 29

みんなの写真館 28

(姜晋如、新宅久夫)

—— 善 隣 第551号 通巻818号 ——

2024（令和6）年 9 月 1 日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5
一般社団法人 国際善隣協会

TEL 03（3573）3051
FAX 03（3573）1783

発行人 井出亜夫

編 集 原田克子

編集協力 朝浩之、山谷悦子

印刷所 (有)ゆにおんプレス
TEL 048-834-1201

定価 一部400円 年額4,800円

振替 00120-0-145956

国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345

©禁無断転載

—— 。 —— 。 —— 。 ——

当協会は、中国ならびに近隣諸国
との相互理解を深め、友好親善・交
流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

公開講演会記録

最近のベトナム事情

JICA 専門家 矢代博昭



1. まえがき

日本、ベトナム両国は、昨年、国交樹立50周年を迎え、両国間の交流関係は、政治経済のみならず観光や文化まで、幅広い分野での深化が見られます。そのような折に、国際善隣協会のご厚意により6月13日に最近のベトナム事情について講演を行う機会をいただきました。その内容につき、多少の追加修正も加えながら、現在のベトナム事情をご参考までにお伝えさせていただきます。

私がベトナムに初めて強い関心を抱いたのは、高校時代に連日報道されていたベトナム戦争の衝撃的な映像によるものでした。

大学進学後、1973年7月に韓国で実施されたユネスコ学生キャンプに参加した折ですが、取得したパスポートは、北朝鮮と北ベトナムが渡航可能先から除外されていました。

北ベトナム「ベトナム社会主義共和国」と日本の国交樹立は1973年9月でしたが、同時に南ベトナムと呼ばれた「ベトナム共和国」とは国交断絶となりました。

ベトナム戦争の終結を確認したパリ和平協定は1973年の妥結までに5年を費やしましたが、講和締結が契機となり国交樹立と国交断絶が同時に進行了たわけです。

パリ和平協定には南北ベトナム政府、解放戦線、米国の4者が署名しましたが、北ベトナムにとり、それまでのベトナム戦争は南ベトナム政府支援に介入した米国との抗米救国戦争と位置付けられていました。

米軍の撤退後も祖国統一を目指す北ベトナムによる南ベトナムへの侵攻は祖国統一戦争として2年にわたり続き

ました。1975年4月のサイゴン陥落、いわゆる南ベトナム解放統一により、ベトナム戦争は終結しました。当時、TVニュースで放送された、北ベトナムの戦車がサイゴンの大統領官邸に突入するシーンはベトナム戦争終結を象徴するものでした。

しかし、1975年以降も、ベトナム新政府による南ベトナム政府関係者や資本家などへの政治的弾圧は続き、ボートピープルの発生など混乱は続きます。

また、配給制度による貨幣経済の否定など急進的な共産主義経済の推進はベトナムに経済的な混乱をもたらし、やがてベトナム経済は破綻寸前に陥ります。

破綻を回避すべく1986年にドイモイ（刷新）と呼ばれる市場・貨幣経済政策が導入され経済破綻から免れることができました。

私は1976年に伊藤忠商事に入社し1991年に初めてベトナムを訪問しました。貧しいながら町には活気があふれ、交差点で出会った新聞売りの

少年が英越辞書売りながら、客待ちの間に本を読みふける姿は、ベトナム人の勤勉さを私に強く印象づけるものでした。

1人当たりのGDPが1991年には140ドルだった国が昨年は4300ドルとなり日本の成長が停滞していた30年余りの間にベトナムは30倍の経済成長を遂げました。

改めまして、ベトナムの歴史、したたかなベトナムの政治、経済運営に着目しながら、最近の事情を述べさせていただきます。今回の内容は、ベトナム滞在中に得た知見によりますが、参考資料につきましても、巻末にまとめさせていただきますので、ご参照ください。

2. ベトナム概観

最近の情勢に触れる前に、ベトナムと中国に焦点をあてた歴史的な概観をお話したいと思います。なぜなら、私のベトナムでのビジネスやベトナム政府機関との活動を通じて、制度や習慣の上で、中国との歴史的な関係进行

起こす機会が多かったためです。

紀元前2世紀頃にベトナムで初めての統一王朝として北部で栄えた南越国の首都は広州で、国王は秦の元官僚でした。今でも広州の博物館に南越国王の金印が保管されています。

その後、南越国は漢に滅ぼされ、続いて隋、唐の植民地となりました。唐の時代には阿倍仲麻呂が唐の長官としてハノイの安南都護府に赴任していたとの伝説もあり、遠い日本とのつながりもありました。

私が2015年より勤務した投資計画省の隣には、当時の都護府の遺跡が発掘されていました。遺跡の隣は現在国会議事堂ですので、昔からハノイは政治の中心だったと言えます。

11世紀に宋から独立し、19世紀まで王朝の勃興衰退を繰り返しながら独立を保っていました。王朝の後継争いでフランスの介入を招き、1887年にフランスの植民地となりました。植民地支配は1954年、抗仏戦争でフランス敗退まで続きました。1949年に建国した中華人民共和国（以

下、中国）は抗仏戦争におけるベトナムの最大の支援国でした。

日本は太平洋戦争中のインドシナ進駐以後1941年より45年まで、軍政を行い1945年3月にベトナムの独立を承認しました。しかし、日本の敗戦により独立は白紙となり、素早く動いたホー・チ・ミン主席により1945年9月2日に独立建国となりましたが、南部へのフランス侵攻の始まりとなりました。

フランスに勝利した後、南北分断と米国の介入によるベトナム戦争の激化を経て1975年4月の南北統一を迎えました。しかしその後、カンボジアのポルポト政権のベトナム南部での領土主張や弾圧されたベトナム人の救済を目的とするベトナムのカンボジア侵攻が1979年1月に起こりました。

1979年2月に入るとポルポト政権を支持する中国のベトナム北部国境への侵攻が起きましたが、抗米戦争で鹵獲した最新鋭の米国製武器を持つベトナムによる侵攻阻止で終わりました。1980年代はベトナム、中国共に

国内で経済危機に陥りましたが、ベトナムは前述の通りドイモイに取り組み、中国は鄧小平政権が改革開放政策を進めました。その過程で両国は協力して経済的利益追求を求めるべきとの機運が高まり、1991年に両国首脳間で関係修復が確認されました。

その後、両国の経済関係は拡大する一方、南シナ海の領有権を巡る両国間の外交的な緊張は現在まで続いています。

地勢的な概観ですが、日本の約83%の国土に2023年末現在、1億73万人が住んでいます。国民の平均年齢は2023年末時点で33・3歳となり、日本の48・4歳と比較し若い国と言えますが、今後、高齢化が進む見込みです。

ハノイーホーチミン間は鉄道で1650キロですが、未電化単線のため特急列車で33時間かかります。高速鉄道や高速道路などのインフラ整備による南北間の時間的な距離の短縮が今後のベトナムの経済発展のための大きな課題となっています。

外務省の統計では2023年のベトナム在住の日本人は1万8949人で、中国在住の10万1786人と比較し約2割となっています。名目GDPではベトナムの40倍の中国の経済規模を考えますと、ベトナム在住の日本人の数は比較的多いようです。

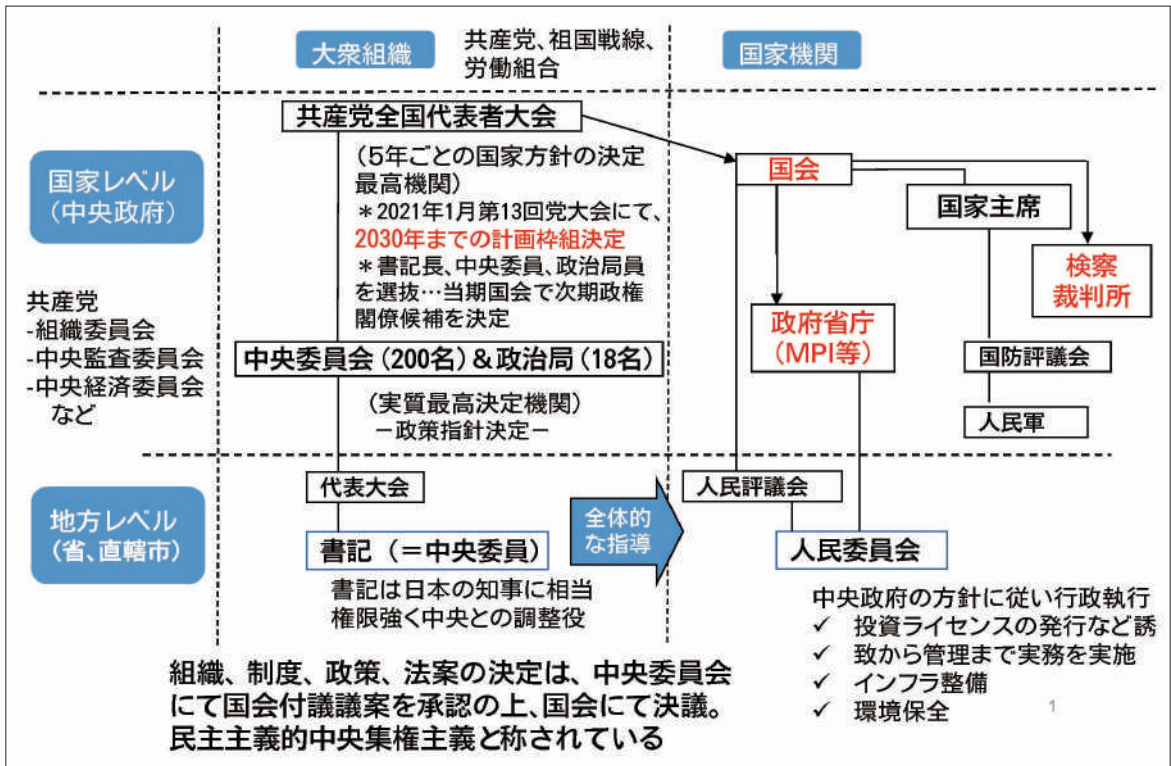
日系企業の拠点数ではベトナムの2373拠点对し、中国は3万1329拠点で、ベトナムに対し15倍程度である点を勘案しますと、日系企業のベトナム進出は今後伸びると思っています。

3. 政治体制

3.1 政治体制

ベトナムでは5年に1度の共産党全国代表者大会が開催され党書記長、200名の中央委員が任命されます。全国代表者大会は年初1月に行われ、続く中央委員会での共産党幹部（政治局員、共産党各委員長）の指名、国会議員選挙の後、その年の5月～6月を目途に政権交代が行われます。次期全国代表者大会は2026年1月の予定と

(図表-1) ベトナムの政治体制……憲法に基づく、土地を国有財産とする共産主義体制



なっており、現政権の任期も2025年末までとなっています。

図表-1にベトナムの政権構成を

まとめましたが、法案、政策の原案は共産党中央委員会での審議を経て国会に上程される

ことから、大難把ですが共産党1党の2院制と考える

と分かりやすいと思います。国会は499名の議員の

うち480名が共産党員となります

が、ベトナムの共産党員数は人口の

5%程度の約510万人となりま

す。

中国の共産党員

数は2023年末時点で9918万人と報道されており、人口比ではベトナムの党員数は中国より少なくなっています。この点から見ると、ベトナム共産党の政権基盤は中国と比較すると弱く、政府は政権への国民の評価に気を使います。特に政権批判が起こりやすい地方への支援を厚くし、少数民族の教育や福祉、貧困問題などの政策に力を入れています。

中央委員会のメンバーは共産党幹部のほか、政府閣僚、地方政府の書記などに任命されています。

地方政府の書記は日本の知事に相当します。地方自治が前提の日本と異なりベトナムでは地方政府は中央政府の一部という認識が前提となっていると認識しています。

ベトナムでは、中央集権と言わずに集団的民主主義を政権運営の基礎としています。つまり権力の集中を避け、合議制を前提としています。行政組織の長が独断で決裁することはないため、行政上の許可や政策の決定に時間がかかり過ぎるケースがありました。

(図表-2) 4柱と呼ばれる主要4ポストを最高指導者とする集団指導体制

党書記長 グエン・フー・チョン 北部（ハノイ）出身80歳。 * 有力後継者不在により、特例で3期連続の再任。 * 汚職対策に注力。 あらゆる不正に対する取締まりを強化。 * 健康面に不安もあるが、安定したリーダーシップを発揮。 * 過度な市場経済への傾倒に慎重な姿勢。 * 2015年に公賓として訪日。 注：2024年7月19日死去。 7月25日の国葬に菅義偉前総理が総理特使として参列。8月3日よりトー・ラム国家主席が書記長を兼務。	国家主席 グエン・スアン・フック 中部（クアンナム）出身67歳。 * 首相として、高い経済成長維持、各国との関係強化の実績あり。 * 対日関係重視。 訪日歴多数。 * コロナ対策でも、実績大。 * 国家主席として、外交面での活躍が期待されたが、2023年1月辞任。 ボー・バン・トゥオン 南部（ビンロン）出身54歳。 * チョン書記長の側近。 * 2024年3月解任。 5月、党推薦により国会にてトー・ラム公安相を国家主席に任命。北部（フイエ）出身67歳。	首相 ファム・ミン・チン 北部（タインホア）出身63歳。 * 越日友好議連会長として、日越関係の促進に大きく貢献。訪日歴多数。 * 公安出身、党中央組織委員長として党人事、組織改革を担当。 * クアンニン省党委書記（2011～2015）として、地方行政の実績あり。 * 首相として、対日関係のさらなる強化に意欲。	国会議長 ブオン・ディン・フエ 北中部（ゲアン）出身65歳。 * 財政大臣、党中央経済委員長、ハノイ市党委書記等を歴任。 * 経済、金融政策の専門家として知見豊富。 * ホー・チ・ミン元主席をはじめ多くの指導者を輩出し、党内でも大きな政治勢力と言われるゲアン省出身ながら、汚職関与のため5月解任。 5月、チャン・タイン・マン副議長が議長に昇格。南部（ハウザン）出身62歳。
---	---	---	--

* 年齢は2024年8月当時

最近では、合議が不十分なまま早く認可すると、裏で取引があったと疑われることもあるため、手続きが慎重になり許認可が一層進まないケースも見受けられます。

3. 2 汚職撲滅運動

2024年7月19日に死去した故グエン・フー・チョン書記長の主導による汚職撲滅運動は昨年よりさらに活発化し、政権の「4柱」と称される党書記長、国家主席、首相、国会議長のうち、部下の汚職を含む汚職関与の責任を問われ国家主席、国会議長が更迭されています。図表-2を

ご参照願います。現在は北部出身者が3名となり、北部色の強い政権となっています。国家主席、首相はいずれも公安部門の出身者です。軍は不動産や通信（Vietel）、金融（Military Bank）、ホテ

ル、港などの経営を握り、公安は交通運輸、劇場、商店管理などを地盤としています。

ベトナムでのビジネスは、軍や公安組織との連携が重要ですが、コロナの時期には軍、公安による徹底した行動制限により日系企業の操業も対応に苦労された例が多く見られました。

土地使用権については、ベトナム戦争後の混乱もあり複雑な権利関係に注意する必要があります。その中でも、特に地方では土地の権利取得に関連する汚職が後を絶たない状況です。

最近のトピックですが、1950年代から1980年代にかけて国家予算不足のため、公務員の給料支払いが、現金に代え給与相当額の土地リース権の譲渡により行われた例が多くありました。最近になり50～70年有効の土地リース期間の終了に伴う国家への土地返還を巡る問題が発生しているとのニュースもあります。

ベトナムの政治トピックスは図表-3、図表-4にまとめましたのでご参照ください。図表-3では最近の中国、

(図表-3) ベトナムの政治事情

	- ベトナムは共産党1党体制であり、立法、行政、司法は前述の通り共産党内部で分担している。 - 政治解説的な報道はなく、政治家の任免など政治動向は官製新聞、政府ないし共産党広報。口コミも多い。 - 党内では、親中派と親欧米派が存在すると言われているが、実態は不明。全般的に親日的。 - ベトナムの政治学とは、共産党の歴史、ホー・チ・ミン思想の学習と研究となり、共産党の正統性確保が最優先事項。 - 最近の中国・日本の関連外交トピックス。
2022年 4月	岸田首相ハノイ訪問、チン首相と会談。日本よりアジア・ゼロエミッション共同体構想を提案。
10月	グエン・フー・チョン書記長（1944年生、当時80歳）の訪中。
2023年 9月	バイデン大統領訪越、米国を中国と同様の包括戦略的パートナーに格上げ。 半導体生産サプライチェーン構築に合意。
11月	トウオン国家主席訪日、日本を包括的戦略的パートナーに格上げ。気候変動対応・安保協力を確認。 岸田首相・習近平国家主席会談（サンフランシスコ）日中戦略的互惠関係と規定。 ベトナムはインド太平洋経済的枠組み（IPEF）に参加署名（14か国、サプライチェーン協力）。
12月	習近平国家主席ハノイ訪問、中越運命共同体構築を宣言（越側は未来共同体と発表）。
2024年 3月	ズン計画投資大臣ミッションの訪中。運命共同体としての取組み確認。 中国－ベトナム高速鉄道、非関税地区設定等を鄭柵潔国家発展改革委員会主任他と議論。
4月	ブオン・ティン・フエ国会議長訪中、習近平国家主席、趙楽際全人代常務委員長他と会談。

(図表-4) 汚職撲滅を指向……縁故資本主義（Crony Capitalism）の弊害と共産党の正当性確保

2022年12月	ファム・ビン・ミン副首相（元外相）、ダム副首相（保健担当）が、コロナ・スキャンダル絡みで更迭。 ミン副首相は米国留学、米国副大使を努め親欧米派とも言われた。 （ベトナム人帰国便割当や検査キット販売を巡りズン外務次官、ロン保健相含む政府関係者140人以上処分）
2023年 1月	グエン・スアン・フック国家主席辞任（コロナ・スキャンダル絡み、元部下の汚職関与）。
3月	ボー・バン・トウオン国家主席就任（当時52歳）……有力な書記長後任候補とされた。
2024年 1月	チャン・トゥアン・アイン中央経済委員長（元商工大臣、ルオン元国家主席の息子）解任。 商工省副大臣2名のエネルギー事業に関わる汚職に関連した監督責任。
3月	トウオン国家主席解任（元部下の汚職関与の監督責任）。
5月	ブオン・ティン・フエ国会議長解任（建設会社の贈収賄に関与し逮捕された助手の監督責任）。 マイ・ティエン・ズン元官房長官逮捕（ラムドン省都市開発不正関与、デベロッパーの華人系。 VTPグループのラン会長に死刑判決、ラムドン省クアン書記、ヒエップ委員長も逮捕）。 チュオン・ティ・マイ中央組織委員長解任（党内規違反）——日越友好議連会長として2024年4月来日。
→2022年末以来、15ヵ月で国家主席2名、副首相2名、国会議長、党常務委員長2名の要職者7名が辞任する異例。7名の内、6名が政治局員。 （2021年発足時18名から12名に減員、5月4名任命し16名となる）。 →次期党大会（第14回）は2026年1月の予定。	

米国、日本との首脳外交の成果、図表-4では汚職撲滅運動の成果を列記しました。

汚職撲滅では国会主席、大臣、党の主要幹部の更迭を大胆に進め、共産党内部の権力闘争を招いているとの見方もありますが、共産党の正統性の確立を目指しているものと考えます。

4. 経済情勢

4.1 国家計画と経済成長

ベトナムでは前述の通り5年ごとの全国代表大会で政治の枠組みを決めています。経済的な目標も国家社会開発計画としてこの大会で決定されます。2021年1月に発表された開発計画で

は、2025年の1人当たりGDP目標を4700（5000ドル、平均寿命74・5歳とするほか、医療、福祉面での改善目標が設定されました。国家社会開発計画では具体的な政策は規定されることなく、各省庁、各地方政府が国家開発計画を軸に政策を練ることになります。

名目GDPの比較では、2023年末時点でベトナムの61兆円に対し米国3857兆円、中国2490兆円、日本は594兆円でした（IMFのデータを2023年末の円の対ドルレート141円で換算）。

中国との経済規模を比較しますと名目GDPは40分の1ですが、コロナ禍にもかかわらず過去8年間では経済規模はほぼ倍増しています。

日米の株式市場の時価総額と比較すると、ベトナムは45兆円に対し、米ナスダックは3400兆円、ニューヨーク証券取引所は3700兆円、日本は931兆円（うち東証プライムは895兆円）です。

ベトナムの経済規模や時価総額は、

まだかなり小さいことから、ベトナム政府の政策にもよりますが、今後の経済成長の大きな可能性を秘めていると思います。

4.2 経済構造

経済規模の拡大要因ですが、海外からの投資拡大と輸出拡大が貢献しています。輸出では、米国向けが2018年は138億ドルでしたが2023年は970億ドルと7倍強の伸びとなりました。

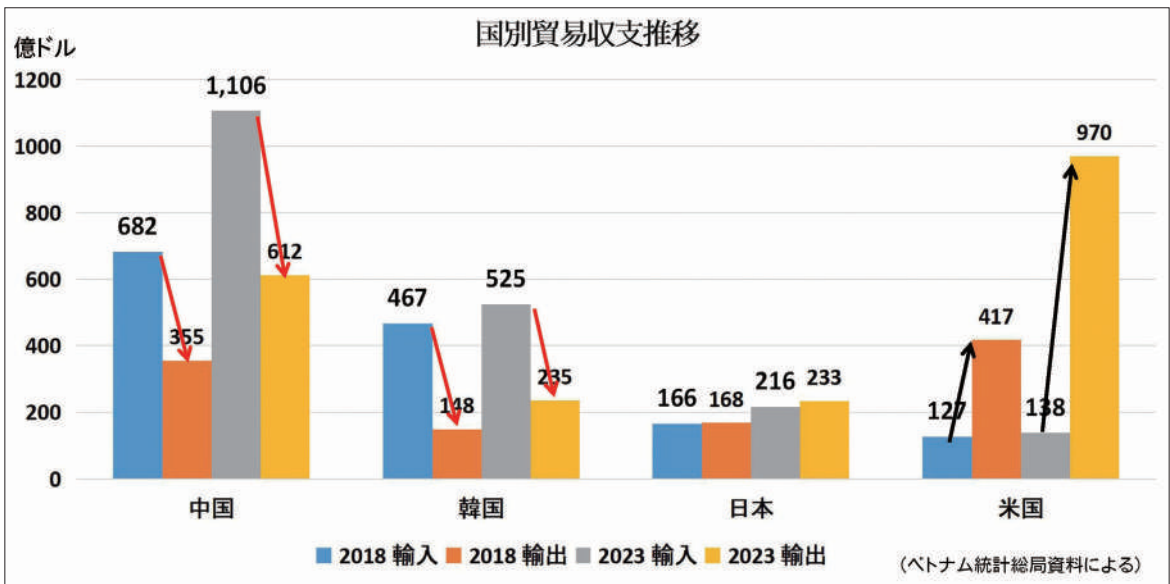
図表5の通り、中国、

韓国から部品、原材料を輸入し、製品化して米国に輸出する輸入超過と輸出超過が併存する跛行的な構造となっています。

なお、外資企業が2022年の輸出額の74%を占めており、またGDPに占める輸出額の割合は

（図表-5）貿易構造の跛行性

原材料・部品を中国、韓国より輸入し、製品化して、国内で販売するだけでなく米国に輸出。そのため、中国、韓国に対しては輸入超過、米国に対しては輸出超過が続いている。そのため、米国より為替操作国監視対象となっている。Dong/US\$レートは2018年平均レート23,000ドン/ドルに対し、2023年平均レートは25,000ドン/ドル。



81%となっていることから、外資と貿易依存型の経済構造と言えます。今後は、人口1億人を超える内需の伸びが経済規模を押し上げていくと考えます。

4.3 外国直接投資（FDI）の傾向

図表6の通り香港を含む中国の投資の伸びが顕著です。8年前は中国・香港で18億ドル強でしたが、昨年は、91億ドルで5倍の伸びとなりました。

米中対立による中国企業のベトナムへの生産シフトの一方で、中国の企業家による中国国内のビジネス環境に対する厳しい見方も影響していると思われます。

図表6の通り2015年は韓国、日本、シンガポール、台湾が投資額の上位を占めていました。その当時は、韓国はサムスン電子をはじめとする電子産業が投資ブームを迎えていました。2023年の日本の投資は九州電力・東京ガスによるタイビン液化天然ガス発電案件が20億ドル、三井住友銀行による15億ドルのVPバンク買収な

どの大口投資がありました（新規36億、M&A29億ドル）。

最近の傾向ですが、6月9日の日経新聞によりますと、中国の電子部品市場への参入が拡大しています。例えば、ベトナムでのアップルのサプライヤー35社のうち12社が中国企業です。

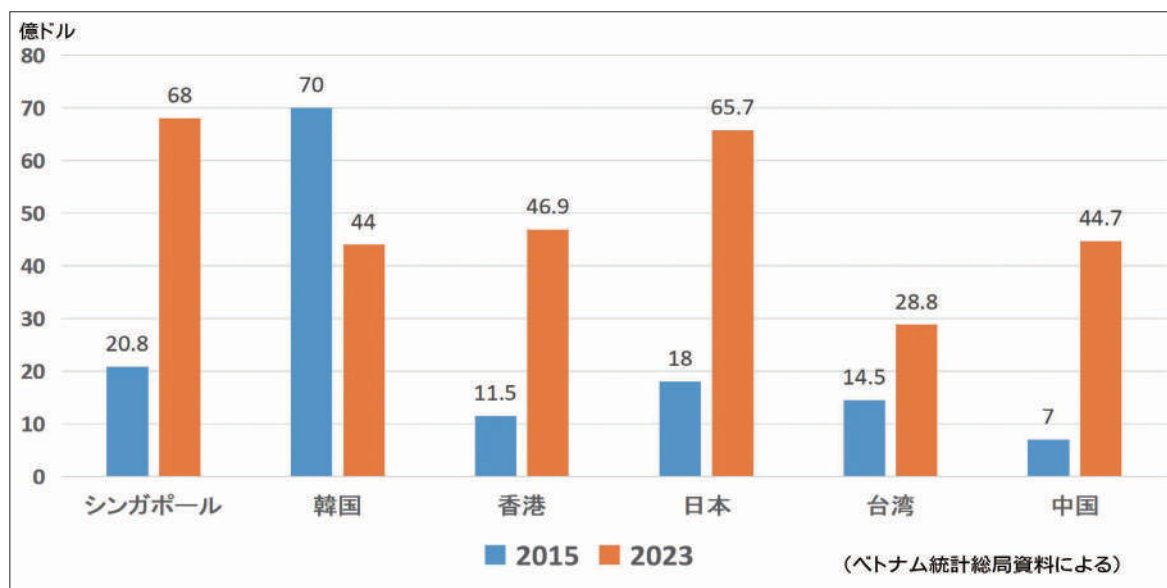
これは一带一路政策による中国政府の後押しの影響が大きいと考えられます。

中国企業の技術開発力や製品品質の飛躍的な改善により、今後、ベトナムをはじめとするASEAN地域での中国企業のプレゼンスが急速に拡大すると考えます。

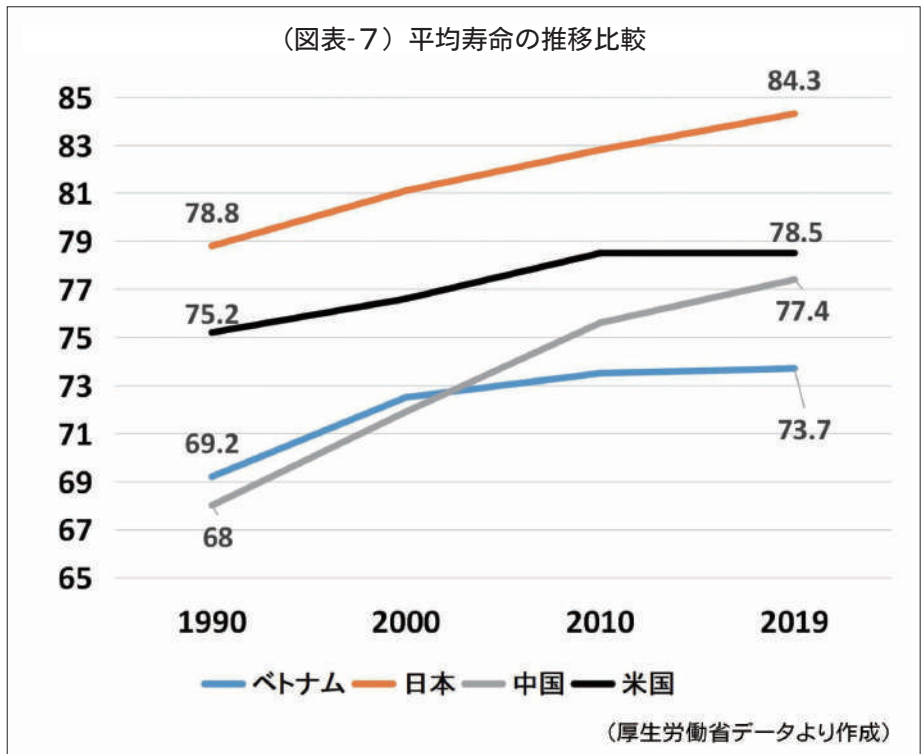
4.4 経済成長を支える人材育成

（図表-6）投資の動向……中国のプレゼンス拡大

認可ベース投資額比較：中国と香港を加えると2023年は最大の投資額。
米中貿易摩擦に起因する生産地移転の影響に加えて、中国人特有の中国国内のビジネス環境に対する厳しい見方も影響していると考えられる。



(図表-7) 平均寿命の推移比較



2023年のベトナムの大学の数は、237校で年間卒業生は34万人、ほぼ同じ人口規模の日本は793校で56万人の年間卒業生となっており、ベトナムでは教育の拡充が急務と言えます。

飛躍的な経済成長にもかかわらず69・2歳から73・7歳の伸びにとどまっています。今後、ベトナムでは国民の医療、介護、健康管理システムの一層の改善と充実が求められていると言えます。

中国は1270校の大学と484万人の年間卒業生ですが、就職難とも聞いており、一層の経済成長が求められると考えられます。しかし一方では、社会不安のリスクも考えざるを得ません。

別の視点ですが、平均寿命の伸びを経済成長と比較してみますと、図表-7で示しましたように日本は、過去30年の経済成長の停滞にもかかわらず寿命は78・8歳より84・3歳にと6年ほど伸びています。一方、ベトナムを見ますと30年間の

5. ベトナムの国際的な位置付け

5.1 ベトナム独特の全方位外交

ベトナムの外交はBamboo Diplomacyと呼ばれる全方位外交となっています。最近の外交面を見ますと、2024年の6月19日、20日にロシアのプーチン大統領がチョン書記長の招待によりハノイを訪問しました。そして翌21日、22日には米国のクリテンブリック國務次官補がハノイを訪問しインド太平洋地域の安定について協議を行いました。

中国については、2023年12月に習近平国家主席がハノイを訪問し、中越運命共同体構築を宣言しましたが、ベトナムでは未来共同体との表現に和らげられています。

習主席のハノイ訪問は、同年9月のバイデン大統領のハノイ訪問時の包括的戦略パートナーシップ、並びに11月のトウロン国家主席訪日時の日米との包括的戦略パートナーシップへの2国間関係の格上げ、並びにベトナムのイ

ンド太平洋経済的枠組み（IPEF）加盟の後でした。

ベトナムが中国、米国、ロシア、日本、EUなどとの外交関係の維持発展に腐心している点は注目しておくべき点です。

5. 2 国際的な経済連携の推進

日越間では2018年発効のTPP11や2022年発効の「地域的な包括的経済連携（RCEP）」などの経済連携の枠組みがあります。2022年妥結したIPEFには米国、日本、豪州、韓国、ASEAN7か国、インド、フィジー、ベトナムの14か国が参加しており、サプライチェーン構築、公正な貿易、クリーン経済が共同取組分野として盛り込まれました。日越間では2050年カーボンニュートラル達成に向けた具体的な協力が、水素利用、電子ごみ、リサイクルなどの分野で進められます。

中国は中国ASEAN自由貿易協定の構築を通じてベトナムとの自由貿易を狙いますが、今年中の妥結は各作業部

会での交渉に時間がかかり困難と予想されます。

5. 3 国際的指標で見るベトナム

国際機関が公開している指標の中でも、エコノミスト・インテリジェンス・ユニットによる2023年版民主主義指数では、1位のノルウェー、16位の日本、29位の米国に対しベトナムは136位、中国は148位となりました。ベトナムは、憲法によりマルクス・レーニン主義とホー・チ・ミン思想による国家運営と共産党の一党統治が、国是となっていることから、指標との乖離はやむを得ないと考えます。世界経済フォーラムによる2022年のジェンダー・ギャップ指数は146か国中、ベトナムは83位、日本は116位でした。ベトナムでは政府機関や企業で活躍する女性幹部は日本より多いように思いました。

6. ベトナム雑感―あとがきに代えて

6. 1 投資環境

ベトナムの国会開催期間は、年2か月ほどの短い会期の一方で、立法の審議には2年〜3年の長い時間を要します。ベトナムでは当然ながら法律で規定されていないことはできないことから、法律の不備が指摘されるケースが散見されますが、前述の通り法制度の整備には時間がかかります。

投資環境の改善については、日越共同イニシアチブとして両国政府機関並びに民間企業団体を交えた協議の枠組みが設けられており、ぜひ、協議を通じて課題抽出と解決が関係者間で進むことを願っています。

6. 2 ベトナム人気質

冒頭で触れましたようにベトナム人は勤勉だと思いますが、それに加えて、北部では納得性を重んじる人々が多いようです。指示された業務について、なぜ自分が指示されたのか、指示を達成するための方策や目標の意義など細かな説明が必要な場合が多かったと思います。

南部では、やりがいや業務を行うことの楽しさを重視する傾向が見られ、「君だけが頼りだ」と励ますと頑張ってくれた経験もありました。

ベトナム人は家族ぐるみの付き合いを大切にするので、食事などでは家族にも声をかけると喜ばれました。また、本音で話し合えるまでは仕事の話しはしないほうが、スムーズな人間関係を作れたと思います。

政府機関の幹部であっても奥さんに頭が上がらない方もいて、家族への声かけで仲良くなれたこともありました。人当たりが良くても、気心が知れるまでは胸襟を開いた会話が難しい点は外国からの侵略をたびたび受けた歴史的な背景も影響していると思います。

ベトナムは政府に限らず国民の多くが日本に対して、パートナーとしての「WIN-WIN」となる協力関係を築いていくことに多大な期待を寄せています。

今後もし引き続き日越関係の一層の発展への取組みが両国で行われていくことを願いつつ終わりとさせていただき

ます。

補足文献リスト

1. 『ベスト&ブライテスト（1〜3）』ディビッド・ハルバースタム／浅野輔訳、1972〜76年、サイマル出版会。
2. 『ヴェトナム』坪井善明、1994年、岩波新書。
3. 『ヴェトナム現代政治』坪井善明、2002年、東京大学出版会。
4. 『ベトナムの対外関係―21世紀の挑戦』白石昌也編著、2004年、暁印書館。
5. 『サイゴンの火焰樹』牧久、2009年、ウェッジ。
6. 『ヴェトナム新時代』坪井善明、2011年、岩波新書。
7. 『日本をめざしたベトナムの英雄と皇子』白石昌也、2012年、彩流社。
8. 『物語ヴェトナムの歴史』小倉貞男、1997年、中公新書。
9. 『私たちの物語』ヴォー・ホン・フック／加納遥香訳、2023年、パ

レード。

10. 『歴史から読み解くアジアの政治と外交』坂場三男、2004年、カナリアコミュニケーションズ。
(2024年6月13日・公開講演会)

筆者略歴（やしろ・ひろあき）

1952年生まれ。1976年早稲田大学卒業、同年伊藤忠商事入社。同社退職後、2015年から2023年までベトナム計画投資省へのJICA派遣専門家として外国投資誘致支援、中小企業政策実施支援に関わる。2006年〜12年伊藤忠商事ベトナム代表（ハノイ駐在）。2015年〜23年ベトナム計画投資省企業開発庁JICA専門家派遣。ベトナムでの主業務：伊藤忠ベトナム代表として事業投資活動、JICA専門家として、外国投資庁にてベトナム側官僚向けの外国投資誘致政策の実施指導、および企業開発庁にてベトナム側官僚と共に中小企業支援政策の実施支援。

公開講演会記録

茨木のり子の脱境界的詩作

—韓国と中国への眼差し

立教大学兼任講師 金智英



はじめに

茨木のり子は、戦後日本社会の問題を詩作を通じて描いた詩人で、その作品は教科書に載るなど広く読まれている。代表作としては、戦後の様子を女性の立場から描いた「わたしが一番きれいだったとき」が挙げられる。まずは詩を紹介する。

わたしが一番きれいだったとき
街々はがらがら崩れていって
とんでもないところから

青空なんかが見えたりした

わたしが一番きれいだったとき
まわりの人達が沢山死んだ
工場で 海で 名もない島で
わたしはおしゃれのきっかけを落して
しまった

わたしが一番きれいだったとき
だれもやさしい贈物を捧げてはくれなかった
男たちは挙手の礼しか知らなくて
きれいな眼差だけを残り皆発っていた

わたしが一番きれいだったとき
わたしの頭はからっぽで
わたしの心はかたくなで
手足ばかりが栗色に光った

わたしが一番きれいだったとき
わたしの国は戦争で負けた
そんな馬鹿なことであるものか
ブラウスの腕をまくり卑屈な町をのし
歩いた

わたしが一番きれいだったとき
ラジオからはジャズが溢れた
禁煙を破ったときのようにくらぐらし

ながら

わたしは異国の甘い音楽をむさぼった

わたしが一番きれいだったとき

わたしはとてもふしあわせ

わたしはとてもとんちんかん

わたしはめっぽうさびしかった

だから決めた できれば長生きすることに

年とってから凄く美しい絵を描いた
フランスのルオー爺さんのように

ね

この詩のように、茨木の詩作は、個人的な経験と社会的な問題を結びつけて、特に戦後日本社会の貧困や混乱、そして個人の喪失感などを描き出している。その彼女は1975年に夫である三浦安信が肝臓がんで亡くなった後、新たな挑戦を求めて1976年に韓国語を学び始める。それは、茨木がその後の文学的活動において韓国との深いつながりを築く基盤となる。そして1990年に『韓国現代詩選』（花

神社）を翻訳出版して、韓国文学の日本への紹介に貢献した。

そこで本稿では、茨木のり子がどのようにして韓国に対する情熱を抱いて、その情熱が彼女の詩作活動にどのように影響を与えたのかを紹介したい。また、彼女が韓国だけでなく、中国や他の国にも深い関心を持ち、その文化や詩に触れ、理解を深めようとした努力についても触れる。最後に、茨木のり子の脱境界的な詩作の意義と彼女のメッセージを通じて、現代に生きる私たちが学ぶべきことについて考察する。

1. 詩作の始まり

1. 1 生い立ち

茨木のり子は1926年に大阪で生まれた。1943年、17歳のときに帝國女子医学薬学専門学校薬学科に入学し、1945年には19歳で学徒動員され世田谷区にあった海軍系の薬品工場で働いた。そして1949年、23歳のときに医師の三浦安信と結婚して、埼

玉県所沢市に住むようになる。そしてこの頃から詩も書き始め1953年には、詩人仲間と同じ詩学研究会に投稿していた川崎洋とともに同人詩誌『權』を創刊した。同誌は谷川俊太郎、大岡信など多くの新鋭詩人を輩出していく。1975年、49歳のときに夫の三浦安信が肝臓がんで亡くなり、1976年、50歳のときから韓国語を習い始める。1990年には64歳で翻訳詩集『韓国現代詩選』を刊行した。1999年、73歳のときに『倚りかからず』を刊行し、15万部の売上を記録して、2006年79歳のときにくも膜下出血のため、東京の自宅で亡くなった。

1. 2 初期詩に現れる社会意識

上記のように茨木は1949年に結婚して、この頃から詩も書き始めたが、まずこのことに注目してみたい。彼女は当時のことを自らのエッセイ「はたちが敗戦」で次のように書いている（傍線は筆者による）。

夫は勤務医で、彼もまた医学の新し

い在りかたを求めて意欲的であった。米も煙草もまだ配給で、うどんばかりの夕食を取りながら、エドガー・スノウの『中国の赤い星』を一緒に読みあったのはなつかしい思い出である。二十五年間を共にして、彼が癌で先年逝ったとき、戦後を共有した一番親しい同志を失った感が痛切にきて虎のように泣いた。(茨木「はたちが敗戦」)

当時夫である三浦安信は彼女の詩作を応援していたことがわかる。また、反戦運動をしたアメリカのジャーナリスト、エドガー・スノウの『中国の赤い星』に言及しているが、実際茨木が当時この本に影響を受けて書いたとみられる詩があるので紹介したい。「ひそかに」という詩である。

節分の豆は
むかし

ジャングルにまで撒かれたが

巨濤

をみとどけた者はいない

(中略)

みんなふやけて還ってきた
颯颯と箒でまとめられ
中に一粒のエドガア・スノウすらまじえずに

(後略)

この詩で「節分の豆」は、戦争に行かされた日本の若い兵士たちで、彼らは「撒かれた」ときと同じように、戦争が終わると「颯颯と箒でまとめられ／中に一粒のエドガア・スノウすらまじえずに」「みんなふやけて」日本に還ってくる。戦争でたくさんの若者が命を奪われたが、還ってきたものは「みんなふやけて」いたこと、つまり、戦前、天皇を基軸とした世の中を樹立するという使命感を持って、命を落とすことをも覚悟して戦場に行った若い兵士たちが、還ってきて無気力であることに対して、彼女は「おびたらしい死の宝石をついやして／ついに／永遠の一片をも掠め得なかつた民族よ」と嘆いている。「ひそかに」は、詩を書く

き始めた頃の茨木のり子の社会意識と批評精神がうかがえる作品の一つである。茨木のこうした激しい詩の表現からは、時代の持つ課題を率直にうたい出そうとする作者の意思がみられる。

2. 茨木のり子の生涯と詩作活動

2. 1 詩人としての出発『權』

茨木のり子の詩作は、戦後の貧困と混乱の中で始まった。戦後詩の主流を占めていた『荒地』や『列島』の詩人たちは、新しい世代に席を譲り、1953年には『權』『氾』『猥』の三つの雑誌が創刊された。茨木と川崎洋が創刊した『權』には、谷川俊太郎、舟岡遊治郎、吉野弘などが参加し、詩誌は第11号でいったん休刊するも、1965年に再刊されて1997年まで続いた。

『權』の創刊号には川崎の「にじ」と茨木の「方言辞典」が収録された。前章で紹介した「ひそかに」は茨木のり子が創刊号のために「方言辞典」と

ともに「宣言」の題で出した詩であったが、川崎は「創刊号には〈方言辞典〉だけを貰う」（茨木「『權』小史」）と述べ、「宣言」の方は茨木に返したと言う。後ほどこの「宣言」の詩を直したのが「ひそかに」という詩である。

この逸話からもわかるように茨木と川崎は詩に対する考えの違いを明確にした上で、同人として出発したのである。後ほど谷川俊太郎が「基本的に茨木さんは正しいことを書く詩人」（谷川「生活の形を変えなかった人」）と述べたように初期の茨木の作品の多くは、自身と戦後日本社会を反省的にとらえた、ある意味でメッセージのある教訓的な内容を含んでいた。

2.2 「骨格」確かな「日本語の語感」で書かれた詩を求める

「『權』小史」で茨木は、「權は文学運動でもなかったのだが、『荒地』や『列島』が表現し残したものを、埋めようという、本能的な衝動のようなものは、皆に共通にあったような気がしてならない」（茨木「『權』小史」）と

述べた。敗戦後の詩運動の中で、特に挙げられているのは、『荒地』と『列島』である。『荒地』は戦前のモダニズム詩の系譜を受け継ぎ、戦争体験から生じた失意感を表現し、『列島』はプロレタリア系の詩人たちが集まり、政治と詩の芸術性を融合させようとした。ここで茨木が「『權』小史」の中で、「敗戦後の詩運動はおおむね、骨格ばかりのようで、水気、色気、うぶ毛などがいたって乏しく感じられた」「多くの詩が日本語の語感では書かれていないという、大いなる疑惑と不満を持っていた」（茨木「『權』小史」）と述べたのは注目に値する。つまり、茨木は思想性やメッセージ性に力点を置いたプロレタリア詩と、言葉の芸術性を主張したモダニズム詩を批判しながら登場した『荒地』『列島』に「疑惑」と「不満」を抱きつつ詩作を始めたのだ。茨木が追求した詩とは「骨格」（思想性）の確かな、「日本語の語感」（芸術性）で書かれた詩であった。

『權』は1957年にいったん終刊となるが、その経緯については明確ではない。編集長であった川崎洋から茨木への手紙には、「同人はそれぞれ皆、個人の仕事へと比重が変ってきた。グループ単位でしか物を見れない、昨今の怠惰な風潮にも一発くらわせた、權も解散にふみきった」（茨木「『權』小史」）ことが記されている。この発言から『權』は単一の運動としての主張を行うのではなく、個々の詩人の表現の場であったことが垣間見える。

以上のように『權』は個々の詩人の個性を重視した詩誌であり、戦後詩の中で独自の立場を持ち、『荒地』『列島』とは異なるアプローチで戦後詩を展開した。

その後茨木は1955年に第一詩集『対話』を刊行する。そこには先ほど紹介した「ひそかに」のような詩、例えば「いちど見たもの」や「根府川の海」など、主に敗戦後の日本社会のあり方、戦争によって失われたもの、指導者たちへの批判、歴史問題などをテーマにした詩が多く収録されている。

3. 脱境界的詩作

3. 1 隣人愛の詩人

茨木のり子は、戦後日本社会の直面するさまざまな問題を取り上げて詩作を続けたが、彼女は日本という祖国だけではなく、在日朝鮮人、ユダヤ人など、他者にも目を向けていた。関連作品としては「行きずりの黒いエトランゼに」「ジャン・ポール・サルトルに」「ユダヤ人を読んで」「奥武蔵にて」「七夕」「うしろめたい拍手——梅蘭芳に」「りゅうりえんれんの物語」「くりかえしのうた」「顔」「隣国語の森」「あの人の棲む国」などが挙げられる。特に「うしろめたい拍手」と「りゅうりえんれんの物語」は中国に関連している作品である。ここでは「七夕」「行きずりの黒いエトランゼに」「うしろめたい拍手」「りゅうりえんれんの物語」を紹介したい。

「七夕」の背景になっている「安達が原」は現在の福島県にあたり、「鬼婆伝説」で有名な場所である。「七夕」

は、初期の茨木における「朝鮮」に対する認識を考えるうえで最も大事な作品である。「朝鮮語の華々しい喧嘩」や「古い恩師の後裔たち」「尾行かと思われている」などの詩句から、ここが

差別と監視のもとで生活している韓国人の集落であることがわかる。「何世帯住んでいるのかわからず／あばらやを出たり入ったりするひとびとは／いつも謎めいて数えることができない」「犬までが他人を寄せつけず獐猛に吠えかかり」などと描写しているように、その場所は、未知の場所であり、恐怖を感じさせる場所であるのだ。さらに、この詩で注目を引くのは最後の連、「たなばたの一言で急におとなしく背を見せて／帰って行ったステコ氏／わたしの心はわけのわからぬ哀しみでいっぱいだ」とうたったところである。ここに述べられている「哀しみ」とは、「多くのもの」を「齎された」「古い恩師の後裔たち」が、今は「あちらでもこちらでも」「さりげなく敬遠され」「夕涼みの者をさえ 尾行かと思われている」ことへの哀しみである。

この哀しみは他の詩においても共通して現れ、それらの本質は、敗戦にまつわる差別問題にあるという点で共通している。

「行きずりの黒いエトランゼに」は1950年の7月11日に小倉（現北九州市）に駐留していた米軍25師団24連隊からの集団脱走をモチーフにしている。第一連／第三連に「路上 何か問いそうな黒人兵のしぐさ／気がつく／目にもとまらぬ迅さで私は能面をつけ／あなたの質問を遮断していた／澄んだ瞳にありありとのぼる哀愁……」とあるが、ここで「目にもとまらぬ迅さ」で「質問を遮断」する行為とは、黒人兵に対する先入観から生じた強い拒否の表出なのだ。その行為をまともに受けた「黒いエトランゼ」は「澄んだ瞳」に哀しみを浮かべる。ここで茨木は「おもえばおかしな世界である」と述べ、先入観による行為が、それを受ける一人の人間にどのような哀しみを与えるものかを描いている。

「うしろめたい拍手」で詩人は「強

いられた芝居をするくらいなら／髭をはやしてしまっただほうがましと／本当に髭をはやしてしまっただという名女形／（中略）／名優に髭をはやさせてしまったのもわれらの軍隊／悔恨と謝罪を塩のように含み／幸せの足下に強く踏み躪ったもののあることを／どこかで深く知っている」とうたっている。このように茨木はあらゆる形で迫害される民族に哀しみを抱くと同時に、そのような状況を「強いられ」る不条理な世界が、「おかしい世界」であることを読者に問いかけているのである。

「りゅうりえんれんの物語」は、朗読だけで30分以上かかる長編詩である。彼女はこの作品を通じて、戦争の悲惨さを生々しく描き出した。戦争によって引き起こされた人権侵害や苦難をリアルに描くことで、読者に対して戦争の悲惨さを強く訴えかけている。この詩は、1944年に日本軍に強制連行され、中国から日本の北海道にやってきた劉連仁の壮絶な逃亡生活を描いている。彼は過酷な炭鉱労働から逃げ

出し、14年間にわたり1400キロの道を転々としながら生き抜いた。茨木のり子は日本から迫害を受けた「りゅうりえんれん」というある特定の人物を、一人の人間として具体的に生々しく描いてその不条理性を焦点化させ、メッセージをより効果的に伝えている。

3. 2 ハングルを学ぶ動機

日本社会だけではなく、韓国人、中国人、日本に住んでいる在日朝鮮人や黒人兵士、つまり偏見や差別、迫害を受ける人々のことを

もうたった茨木のり子は、1976年からハングルの学び始め1990年には『韓国現代詩選』を翻訳出版した。茨木がハングルを学び、韓国文化に関心を寄せた背景には、彼女の人生と文学活動に深く根ざした複雑な

動機が存在する。これを理解するためには、彼女の作品やエッセイ集『ハングルへの旅』（1986年）を検討し、その中で明らかにされた彼女自身の言葉を追求することが重要である。そこで本稿では、拙著『隣の国のことばですもの』で分析した内容の要約として、茨木のエッセイ「動機」を中心に、彼女が韓国への情熱を抱いた背景について紹介する。

まず、茨木が韓国詩に関心を持つようになったきっかけとして、幼少期から抱いていた韓国の歴史や文化への深

隣の国のことばですもの

Kim Ji-yeon 金智英

茨木のり子と韓国

若い韓国女性による茨木のり子論である。新鮮で、首肯しつつ読んだ。韓国社会でも茨木は共感をもって受け入れられつつあるという。「揺るぎない自己」を希求する姿勢が、時代や体制や国境を超えて普遍であるからだろう。

『清冽』著者・後藤正治氏推薦！

なぜハングルを学び、韓国現代詩の紹介に尽力したのか「倚りかからず」の詩人に新しい光を当てる意欲作

筑摩書房 定価(本体価格2200円+税)

い興味が挙げられる。その初期のきっかけは、金素雲の『朝鮮民謡選』（岩波文庫、1933年）を15歳の頃に愛読した経験であり、これが後の彼女の韓国文化に対する深い興味となる基盤を築いたと思われる。彼女は金素雲の『朝鮮民謡選』について、「言葉のわかりやすさ、素朴さ、愛情表現の機智に惹かれたのかもしれない」（茨木「動機」）と述べている。さらに、茨木は古代史にも強い興味を抱いており、特に日本と朝鮮の歴史的な関わりについても深く掘り下げていた。彼女は金思燁の著書『古代朝鮮語と日本語』に触発され、古代朝鮮語にも関心を寄せていた。このような歴史的な関心が、後にハングル学習につながる重要な動機となったといえよう。

さらに、茨木の家族背景も彼女の韓国文化への関心に影響を与えたと思われる。特に母方の祖母は、11歳のときに母を亡くした茨木にとって重要な存在であり、祖母もまた朝鮮文化に深い興味を抱いていた。陶器が好きだった祖母は、生前「朝鮮に行きたい、朝鮮

に行きたい」（茨木「動機」）と言っていたという。祖母のことについて茨木は、「陶器への憧憬からだったろうが、もしかしたら祖母自身、その血の中になんか濃く渡来系を秘めていたのではなからうか」（茨木「動機」）と述べている。この発言は自分自身に対しての言葉としても理解できる。祖母の陶器や朝鮮に対する情熱は、茨木の人生において韓国文化への感情的な結びつきを強める一因となった。それを裏付ける作品として茨木がハングルの習い始める前に書いた詩で、1971年8月『草月77』に発表された「顔」という詩がある。茨木は、「顔」で自分の顔についても書いている。彼女は「あなたの顔は朝鮮系だ 先祖は朝鮮だな」と言われたことに對して「たぶん そうでしょう」といい、第三連で「パミール高原」に対しても同じ態度をとっている。それは、自分のルーツが朝鮮であり、遠くみるとパミール高原であることを意味する。つまり、この詩は、大昔パミール高原から朝鮮を経て、日本にたどり着いた先祖の末裔

が現在の自分であるとの自己確認を試みているものである。彼女は詩を通じて、自らのルーツや文化的アイデンティティを探索し、理解することを望んでいたのだ。このような文化的アイデンティティの探索は、彼女の作品においても重要なテーマとなり、日本と韓国の文化的な交流を促進する役割を果たした。

もう一つ、茨木のり子がハングルを学び始めた動機として、戦争によって生じた自責の念を挙げることができ。茨木は韓国の女性詩人である洪允淑（1925～2015）と交流していた。彼女は洪と出会ったときのことを「動機」で次のように回想している。

「日本語がお上手ですね」

その流暢さに思わず感嘆の声をあげると、

「学生時代はずっと日本語教育されましたもの」

ハッとしたが遅く、自分の迂闊さに恥じ入った。日本が朝鮮を植民地化し

た三十六年間、言葉を抹殺し、日本語教育を強いたことは、頭ではよくわかっていたつもりだったが、今、目の前にいる楚々として美しい韓国の女と直接結びつかなかったのは、その痛みまで含めて理解できていなかったという証拠だった。

(中略) 今度はこちらが冷汗、油汗たらたら流しつつ一心不乱にハングルを学ばなければならない番だと痛感した。

いつか必ず。これも動機の一つである。(茨木「動機」)

同じ状況と思われる場面を『言の葉さやげ』所収のエッセイ「まあ どうしましよう」でも述べている。また、こうした自責の念は、「隣国語の森」という詩にも現れる。三つの作品で共通して自責の念としてのハングル学習に言及していることから、その決意の強さがうかがえる。そして、この決意を実現させたきっかけが、夫の死であった。一番近い存在であった夫の死を受けて、茨木は「女の自立」(茨木

「はたちが敗戦」を成し遂げなければならなかった。このことについて彼女はエッセイ「はたちが敗戦」で次のように述べている。

戦後あれほど論議されながら一向に腑に落ちなかった〈自由〉の意味が、やっと今、からで解るようになった。なんとこういうことはない「寂寥だけが道づれ」の日々が自由ということだった。

この自由をなんとか使いこなしてゆきたいと思っている。

茨木は、それまで必ずしも意識的な対象ではなかった韓国を夫の死から得た自由により自分の意志で具現化していった。具現化した韓国は当然彼女の詩作へとつながっていった。

以上からわかるように、ハングルを学び、韓国文化に深い関心を寄せたのは、単なる言語学習の動機を超えた複

韓国関連書籍(左)、『韓国現代詩選』で紹介された詩人たちの詩集(右)が並ぶ茨木のり子の書棚の一部



難な要因によるものであった。彼女の人生、文学的探求、家族背景などが複合的に絡み合い、彼女を韓国へと導く道筋を形成した。その結果、彼女は日本と韓国の文化交流に貢献する重要な文学的な懸け橋となった。

4. 韓国への情熱

4. 1 『韓国現代詩選』

『韓国現代詩選』（1990）は1987年から1989年の3年間に季刊詩誌『花神』に連載された詩を中心に編纂されたアンソロジーである。この訳詩集には、12人の韓国現代詩人による62篇の作品が収められている。本稿では、紙面の都合により12人の韓国の詩人とその訳詩を紹介することができないため、個別の詩人の紹介ではなく、全体としての特徴に焦点を当てることとする。

一つは、紹介されている詩人は、初期の詩の傾向が異なっていたとしても、次第に社会の現実や時代意識を反映した詩を書いている詩人たちという

点である。

次は、ほぼすべての詩が平明な言葉で書かれており、そのメッセージがわかりやすくなっている点である。

最後は鄭玄宗^{チョンヒョンソン}、李昇薫^{イスンフン}、金春洙^{キムチュス}

ように、当時の韓国詩壇に大いなる業績を残した詩人たちが茨木の『韓国現代詩選』には紹介されていないという点である。これらの詩人たちは、各自の内面世界に目を向け、精神の自由はうたっていたものの、社会問題などを直接うたっていないという点で、『韓国現代詩選』に紹介されている12人の詩人たちと相違点を持つ。茨木が『韓国現代詩選』のあとがきで「韓国には韓国の詩壇地図があるわけだが、それをなぞろうとは思わなかった」と述べているように、茨木は「自分の気に入った詩」（茨木『韓国現代詩選』）を集めたのだ。

また、茨木はかつての『荒地』や『列島』の詩がモダンイズム詩とプロレタリア詩の限界を克服できなかったことを受けて、自らが「骨格たしかな」（思想性）、「日本語の語感」（言葉の芸

術）で詩を書くことを決意していたように、韓国の現代詩に接した際も「骨格」と「語感」で詩を評価しようとする傾向があったと考えられる。

茨木の韓国現代詩翻訳は、韓国の詩が持つ独特の感性や表現を日本の読者に伝えることに成功し、両国の文学的交流を促進した。その功績が評価され、1991年には読売文学賞（研究・翻訳賞）を受賞した。

4. 2 韓国における茨木のり子

茨木のり子はハングルを学ぶなど、韓国に対して関心を寄せていたが、彼女の作品は韓国においてどのように受容されていたのだろうか。実際、彼女の詩「わたしが一番きれいだったとき」のタイトルは、韓国において一人歩きし、多くの作品のタイトルとして使用されている。その代表的な例として、コン・ソンオクおよびシン・イヒョンの小説が挙げられる。

コン・ソンオクとシン・イヒョンの小説、『わたしが一番きれいだったとき』は、作品の時代背景やキャラク

ターの個性、伝えたいメッセージなどにおいて多くの違いがある。しかし、社会的状況によって「一番きれいだったとき」を失った人物たちの物語を描いている点では共通点を持つ。『わたしが一番きれいだったとき』というタイトルは、1945年の解放後に続く南北戦争と分断、独裁体制と軍事政権、経済危機などという暗い時代を生きた韓国の女性たちに大きな共感を呼び起こしたのだ。混乱の時代を生きた人同士として奪われてしまった青春への愛惜の念に共鳴するものがあったからであろう。

茨木の本が単著として韓国に紹介されたのは、韓国をテーマに書いたエッセイ集『ハングルへの旅』で、同書は詩選集よりも先に2010年に翻訳出版されていた。詩選集が初めて刊行されたのは、2017年に刊行された翻訳詩選集『わたしが一番きれいだったとき』である。同書は日本で刊行された田中和雄選の『おんなのことば』の翻訳であった。そのため、茨木を広く知らせるきっかけとなった「倚りかか

らず」や、韓国を題材にした「七夕」、夫に対する愛をうたった「歳月」など、茨木を深く理解するために重要な意味を持つ作品が紹介されていないことは、極めて残念に思えてならない。

その後、2019年にボムナレチュクから茨木の2冊目の翻訳詩選集『はじめての町』が出版された。この本は訳者が直接『茨木のり子全詩集』から作品選定を行った。編訳者は太宰治、芥川龍之介、宮沢賢治、大江健三郎などの作品を訳したジョン・スュンである。同書には52篇の翻訳詩が収録されており、すべての詩の前には、原詩が紹介されている。52篇の詩の出典は茨木が生前刊行した9巻の詩集と詩選集、スクラップブックからで、作品選定や配列にも工夫したことがうかがえる。

「戦後詩の長女」と称され、戦後詩人を代表する詩人の一人である茨木のり子が、戦後70年以上を経た現在、韓国で詩集が出版されるなど話題となっている理由を考察することは興味深い。これは決して韓国の詩の水準が50

年前に逆戻りしたことを意味するものではない。むしろ、生の意味を追求する姿勢は、時代や国を超えて普遍的に要求されるものであると考えられる。茨木の詩の核心は、戦後という時代との対話と対決の中で自己を確立することにある。このため、彼女の作品は国境を越えて韓国でも受け入れられているといえよう。

もう一つの理由として、韓国におけるフェミニズム文学ブームの影響も挙げられる。韓国では儒教思想が文化の根底に根付いており、依然として男性優位の考え方が残っている。そのため、韓国社会において女性たちは自らが置かれた不平等や矛盾に敏感である。1990年代に入り、民主化とともにフェミニズム運動が盛んになり、文学の分野では2017年にチョ・ナムジュの『82年生まれ、キム・ジョン』が100万部以上の売上を記録した。同書は、女性の新たな生き方や矛盾に満ちた立場を感受性豊かに描き、多くの読者から共感を得た。茨木の詩には、現代のフェミニズムを直接意識

したものとはいえないが、女性の生き方に対する追求にはフェミニズム的要素が含まれている。「わたしが一番きれいだったとき」はその一例である。女性の生き方に真摯に向き合う姿勢や、政府のみならず天皇まで批判する広い視野の批評精神が、韓国読者の心を引きつけたと考えられる。

結び

以上、本稿では、茨木のり子が生きた時代的背景に注目しながら、茨木と韓国との関連性を紹介した。茨木のり子の詩作は、日本という枠組みを超え、韓国や中国といった他国への深い関心と理解を通じて形成されたものである。彼女の作品には、自身の経験や社会的な問題だけでなく、異文化への共感と理解が色濃く反映されている。特に韓国に対する情熱とその影響は彼女の詩作において重要な役割を果たし、異なる文化や歴史を詩の中で融合させることに成功している。彼女の詩作活動を通じて示された「脱境界」の

姿勢は、現代においても大きな意味を持つ。国境や文化の壁を越えて他者を理解し共感することは、国際社会においてますます重要となっている。茨木の詩は、そのような姿勢を私たちに示し続けているのである。

参考文献

- 茨木のり子「權」小史『茨木のり子詩集』現代詩文庫20、思潮社、1969年、100～124頁。
- 茨木のり子『言の葉さやげ』花神社、1976年。
- 茨木のり子『ハンゲルへの旅』朝日新聞社、1986年。
- 茨木のり子訳編『韓国現代詩選』花神社、1990年。
- 茨木のり子「はたちが敗戦」、山本安英「茨木のり子について」ほか『増補茨木のり子』花神ブックス1、花神社、1996年、71～77頁。
- 宮崎治編『茨木のり子全詩集』花神社、2010年。
- 金智英『隣の国のことばですもの―茨木のり子と韓国』筑摩書房、2020

年。

谷川俊太郎「生活の形を変えなかった人」『文藝別冊』茨木のり子―没後10年「言の葉」のちから』河出書房新社、2016年、7～11頁。

※詩の引用は『茨木のり子全詩集』（花神社）に拠った。

（2024年6月24日・公開講演会）

筆者略歴（キム・ジョン）

1984年韓国ソウル市生まれ。2014年大東文化大学文学部日本文学科卒業、2016年立教大学大学院文学研究科比較文明学専攻博士前期課程修了。修士論文は「尹東柱の翻訳問題からみる日韓関係」。2019年同後期課程修了。博士論文は「茨木のり子における韓国」。著書に『隣の国のことばですもの』がある。現在、立教大学兼任講師。

陶々俳壇

会
句
陶
陶
結
果
2024年5月

兼題 「水馬」

馬場由紀子

軍服の虫干し嫌う母なりき

日野正子

◎善一 亡き夫の軍服を大事に毎年虫干しをする習慣に、夫を偲ぶ様子がうかがえるよい句。
◎明良 否応なく一丸となって戦った不幸な歴史がまだ消えずして仕舞ってあるようです。あちこちで火の手が上がり過酷な戦乱が起きています。

◎由紀子 戦争を想起させるものはもう見たくないという切実な思いだろうか。もしかしたら、階級の高い軍人であったがため、周囲への配慮がもしれない。いずれにせよ戦争を厭うお妣様のお気持は痛いほど伝わってくる。

囀りや葉陰に何羽居るのやら

〃

◎紅朽 樹木全体が囀りで満ちているが、姿は見えない。新緑が美しい頃の景。星野立子の句に「囀りを（ほろ）と抱く大樹かな」とある。

◎善一

あめんぼとあめんぼ水輪重なりて

〃

◎二三四 二匹のあめんぼが作る水の輪が交差する美しい景。水の輪が広がるようなりフレインが効いています。

◎由紀子 水馬のいる水面を覗いている臨場感がある。静かでそれでいて楽しい句に仕上がっている。

満開の花しだるるや神田川

橋本紅朽

◎二三四 狭い川幅にトンネルを架けるような校並木。東京の春ならではですね。

◎正子 神田川沿いを友人と歩いた校散策が思い出されます。

◎明良

井の頭公園に端を築き浅草橋近くで隅田川に合流する神田川はあちこちに校の名所を生んでいます。花しだるるは狭い流れを覆うように両岸から校が咲く様を言いえて妙です。

水面に膜あるごとく水馬

〃

◎二三四

黄色のランドセル歩く春日影

〃

◎由紀子 ランドセルに交通安全の黄色いカバーを付けているのは一年生であらう。街路樹の下を下校している景であらう。

新茶来る夫婦茶碗を添へられて

大内善一

◎正子 送られた夫婦茶碗で新茶をゆつくりと味わっている穏やかなひと時の情景が目につかびます。

◎紅朽 夫婦茶碗と新茶の風情がいつまでも続くことを祈ります。

燕の子皆口あけて親を待つ

〃

美しき五月の山野眺望す

〃

◎紅朽

鎌倉や日蓮追う道花吹雪

瀬崎明良

◎正子 鎌倉の日蓮縁の寺を訪れ、花吹雪の下、日蓮の受難を思う。

◎紅朽 鎌倉を日蓮にフォークスして詠んだのは珍しい。作者が日蓮の足跡を追っての鎌倉行ということなので「鎌倉に日蓮迎る花吹雪」としても。

鯉のぼり泳ぎし行方空の青

〃

◎京

◎正子 空の青に鯉のぼりが泳いでいるすっきりした句です。

◎紅朽 近景と遠景。風に乗って鯉が勢いよく泳ぐさまが目につかびます。

武者人形我が持つ手には錆刀

〃

◎二三四 武者人形を見ている「我」、しかし自分が持つているのはもう錆が回った古い刀である、と解釈しました。比喻が軽妙、ユーモラスです。

親も子も横一列に鯉幟

松島二三四

◎善一

◎由紀子 川か池に掛けられている鯉のぼりだろう。親子の間がフラットになっているところは、今の世相を反映しているとも言える。

国籍も出自も問わず花吹雪

〃

◎明良

人種や環境に隔たりなく花の宴が楽しめます。園遊会はもれましたが。

図書館の軒下「ツバメふん注意」

〃

◎善一

◎由紀子 俳句では「」はなるべく使わないという暗黙の了解があるが、この場合は図書館の注意喚起の看板で、「」を付けることにより臨場感が増したと思う。

夏めくやカレーに入れるチョコレート

馬場由紀子

◎二三四

暑くなるとカレーの刺激がうれしいもの。溶けやすいチョコレートと夏の相性はあまりよろしくないはずですが、隠し味となると別。作者のレシピの秘密はこれかも。

◎正子 春から夏へと開放されていく気分、わくわく感が、「カレーに入れるチョコレート」の新鮮さよく合います。

藤の香や丹田三つ充されて

〃

◎正子

丹田は気（エネルギー）を蓄え育てるところという意味で、気功では丹田を三つに分け、頭の中を上丹田、胸の中を中丹田、下腹の中を下丹田と表わしています。

◎二三四

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

陶々俳壇

会
句
陶
陶
結
果
2024年6月

兼題 「心太」

馬場由紀子

十葉も告白を聞く校舎裏

松島二三四

◎由紀子 青春真っ只中の一句。十葉というそけない草花を持ってきたところが good! 若さが眩しい。

田水引く代々守る水路より

◎善一

◎正子

◎紅杓

夏草を分け来る電車無人駅

◎紅杓

◎由紀子

夏草に埋もれる無人駅が想像できます。私には電車ではなく、単線のディーゼル車が傾きながらやって来る景が見えます。

三社祭九十歳すぎても血が騒ぐ 大内善一

◎紅杓

三社祭は5月の第三週の週末に浅草寺周辺で開催される東京最大の祭りの一つ。神輿を見ようと近づく人々の渦に巻き込まれ流れから抜け出すのに容易ではない。担ぎ手が掛け声とともに神輿を激しく揺り上げるのを眺めるうちに気分は高揚する。

◎正子

2000年頃ですが、三社祭りで神輿が練り歩くのを見ました。背中に刺青のお兄さんに乗せていました。

里帰り土産は二匹初鰻

◎二三四

誰の「里帰り」かはわかりませんが、お国は土佐でしょうか。丸々と太った鰻を二尾も下げて帰るとは土佐らしい豪快さ。迎える人の笑顔も見えますよつす。

◎正子 小さな鰻もありますが、食べ応えありそ

焼酎をロックで交わす句座の後

◎二三四

この場合の「ロック（氷）」は夏を表す（飲み物）と考えるのが適切なのでしょう。句会のおとの一杯。いいですね! こういう句会なら私も参加したいです。

●由紀子

「焼酎」が夏の季語なので、氷にこだわることはないのですが、夏は氷で、冬はお湯割で飲むのが美味しそつ。

庭師老いあふれる若葉手に余り 日野正子

◎明良

私も庭木べらには支配下に置いたつもりでしたが自然の力強さに体力の限界を知る思いは同じです。ボルネオの山奥でのダム開発が終わり、数十年後に訪ねた建設事務所はジャングルに飲み込まれていました。ボロブドゥール寺院もしかりです。

◎善一

四十年前家を新築した折、元氣だった父親が祝いにいろいろな雑木を送ってくれた、その庭木を近くの造園家が庭に植林してくれた。その庭師も私も馬齢重ねること九十歳を迎え庭師も同様、刈り取る若葉も手に余る有様となった昨今で感無量である。

◎紅杓

陽にまぶし雨にまぶしき若葉かな

◎二三四

◎紅杓

◎由紀子

若葉の美しさを描写するのに、「まぶし」のリフレインが効いています。

「雨にまぶしき」に注目。

初夏の緑の美しさは、雨に濡れても太陽の光に照らされても若々しい美しさがあります。

椎の花匂える門を掃きにけり

◎善一

◎正子

椎の花と匂いについて調べてみました。「椎の花古葉まじりに散り敷きて」（松本たかし）、「椎の花人もすすめぬにほひかな」（蕪村）。

橋本紅杓

庭緑輝くやつとき心太

◎由紀子

おやつ刻は気温も上がる頃。庭の緑を愛でながら心太を嘔ると、身内を風が吹き抜けるよつ。「八つ刻の庭緑<心太>」としても。

心太ツルツルツルとはあら嬉し

◎明良

ツルツルツルにあら嬉しは絶妙な表現だと思います。感性の違いに打たれました。

打水や心スッキリ老いならば

◎明良

打水された路地の記憶は年を経た今は頻繁に浮かびます。

夏休み激辛カレーは爺の味

◎正子

◎由紀子

孫自慢の爺の嬉しそうな顔が目につきます。このお爺さんは孫といえど容赦せぬらしい。本物の味を提供したいところか。

喜びも悲しみも越えところてん

◎二三四

鉛筆の芯のにはひや梅雨きさず

◎明良

湿度が上がるとものの匂いが強く感じられるもの。作者が持つ鉛筆は、俳句を書き留めるためのものか。あるいは素描かもしれません。ふだんよりやや匂い立つ鉛筆の芯に季節の変化を感じとる――正統派の句だと思えます。

◎正子

◎明良

来し方の輝き確と蝸牛

◎正子

カタツムリを詠みながら蝸牛の歩みが語られていきます。

◎明良

◎二三四

カタツムリが這ったあとには銀色の「足跡」が残りますね。それを「輝き」と捉えた…に作者の美意識、人生観を垣間見ました。

*旧かな、新かな、作者の意図に任せる。

中国

ウエックニング

編・訳 上松玲子

フェイクニュース数千件

「西安で突然爆発」「重慶市で民家爆発」など、これら衝撃的な見出しは、AIソフトウェアで捏造された偽情報だ。中国中央テレビの報道によると、多くの地域で関係責任者が行政罰を課され、関与したアカウントが停止された。

現在はAIを使えば簡単に低コストでフェイクニュースを量産できる。「西安爆発」の偽情報を流したアカウントが属する組織は、1日に最大4千から7千件のフェイクニ

ュースを生成する能力がある。同組織の実質的管理者は、同様の組織を五つ、842のアカウントを運営している。

拡散の速さと画像や音声の迫真度が影響を大きくしている。ニュース報道の形式を装った「速報」を作り、人目をひく見出しをつければ、短期間に広く拡散する。それらは社会パニックや治安の混乱を起こし、社会情報環境に多大な損害を与える可能性がある。

遵法意識も道徳観念もなく、ただ再生回数で巨万の富を得ようとする無法者の夢を打ち破るには、法の鋭い剣が必要だ。インターネット上の偽情報拡散は、違法行為であると誰もが知るべきだ。同時に、抑止力になるほどに罰則を強化すべきである。

『中国新聞ネット』2024年6月24日

麦はどうで干す

孫朝陽さんは陝西省渭南市

富平県流曲鎮順義村の大規模小麦農家で、現在23畝以上の冬小麦の収穫を待つ。収穫後1、2か月後販売したほうが、小麦1kgあたり3銭から

4銭高く売れるという過去の経験から、今年も収穫した小麦を倉庫に一時保管する予定だが、その前に乾燥させて水分を減らす必要がある。だが、孫さんの農場の空き地は20畝足らずで場所が足りない上に多くの人手と資材が必要だ。そのため従来は一気に収穫せず、数日ずらして収穫していた。

村の多くの大規模小麦農家も同様だが、この方法は天の「顔色」次第。昨年は収穫期に3日連続で雨が降り、村全体で160畝以上の小麦が収穫遅れで穂発芽を起こし、飼料用として売れるしかなく、大損失だった。

昨年、河南省、山東省、陝西省などの生産地の政府は問題に気づき、率先して役場

の敷地、文化広場、校庭などの公共の場所や公道の一部を小麦乾燥に開放するなどの措置に出た。今年もこの措置は各地で継続されるだろう。

だが、中国社会科学院農村開発研究所の李国祥研究員もそれらは一時しのぎにすぎないし、道路使用に至っては通行禁止を徹底できなければ品質を損ない、消費者が品質を重視するようになった現状に逆行すると指摘している。

李研究員は地方の建設用地の活性化と有効利用を提案する。実際地方には土地があるが、一部の地方の建設計画は「高級すぎて、非現実的」という。たとえば、盲目的に観光開発に多額の費用を投じたものの、目新しさが薄れると、閑古鳥という例も少なくない。

一方で小麦乾燥専用土地を使うのも無駄だ。したがって、たとえば「農繁期には小麦を干し、農閑期には文化活

動を行う」場所の建設こそ農民が今緊急に必要なことに対応し、土地を有効活用することだと李研究員は説明する。

『中国青年報』2024年6月19日

登山同行サービス

先日、大学生が「赤ちゃんを背負って泰山に登る」動画が注目を集めた。動画の主人公、付さんはビデオ撮影者が雇った登山同行ガイドで、山東省の大学でスポーツトレーニングを専攻する大学生。今回の登山はオンラインで初めて受けた仕事だそう。

登山は登山者の体力と忍耐力が試される。登山ガイドが荷物や子どもを見てくれることで、登山者は心身ともに解放され、景色を楽しんだり、写真やビデオを撮影したりする余裕ができる。ガイドの励ましや助けを受け、登山者は自信と強さを得て登山を楽しむことができる。ルート計画

や指導により、登山の効率や質も向上し、安全性も高まる。同時にリスクと隠れた危険もある。たとえば、登山同行ガイドが金銭を受け取って姿を消してしまうこともある。客の要望に応じられないガイドもいる。サービスの品質基準がなく、紛争解決が難しい。登山中の人身事故や物的損害の責任の所在も曖昧だ。

登山同行サービスという新興の業態に対して、関係各部門は基準やルール、紛争解決システム作りに取り組むべきだ。さらに信用、サービスの質、安全確保のために、ガイド情報の検証と照会システム、業界の補償金拠出、第三者支払システム、契約書の標準モデル作成が待たれる。

『北京青年報』2024年6月27日

子どもの健康とつまず

「子どもが休み中に携帯電話を手放さず、目を悪くするの

ではと心配」「うちの子は一日中だるそうで話もせず、元気がない」「子どもが毎日家で暴饮暴食して太った」など。夏休みは保護者の心配も尽きない。近年、我が国の児童や青少年の身体状況は総合的には改善したが、「眼鏡」「太り気味」「痩せすぎ」「ふさがち」といった「四つの軽度の問題」は早期発症と高発生率の傾向にあり、新たな問題として懸念されている。

モニタリングデータによると、2022年の中国の児童・青少年の近視率は51・9%であり、報道によると、中国では6歳から17歳の青少年の約19%、6歳未満の児童の約10・4%が体重超過か肥満であるという。中国科学院心理研究所が発表した「小児・青少年のうつ病治療とリハビリテーションの問題点に関する2024年研究報告書」で示されたサブサンプルでは、最

初に情緒障がいと診断された平均年齢は13・41歳という。一部の専門家は、中国の小学生の脊柱側彎症の患者数は500万人を超え、さらに毎年約30万人ペースで増加していると指摘している。

問題の背景として、勉強のストレス、運動不足、休み時間も座ったままの生徒たち、目の健康よりも成績重視の考え方、電子機器の誘惑に加え、これらの問題に対する保護者の認識不足が指摘されている。

まずは教育システムが成績優先主義から健康第一主義に回帰し、子どもたちが楽しく駆け回り、勉強にも運動にも頑張れる環境を作ることだ。次に心身の健康を社会と学校の重要な理念として、近視率や肥満率などの数値目標を設けるほか、スクリーニングや運動による改善プログラムを実施すべきである。

『新華毎日電訊』2024年7月10日



◆令和6年度第5回理事会の議題（7月18日開催）

今月は下記内容で審議を行った。

●確認事項

6月6日に開催された第4回理事会の議事録（案）が確認された。

●決議事項

1. 正会員入会希望者（林成彬氏）と協力会員入会希望者（田中伸明氏）の入会が承認された。
2. 「常務会」が今まで担ってきた業務を今後は、会長・事務局長・各常任委員会委員長で構成する「委員長会」で担当し、協会の諸課題・理事会の検討テーマなどを審議し理事会に諮ることとした。

●報告事項

委員会報告（定例報告）
（事務局長 竹前栄男）

会員だより

◎新会員

〈正会員〉

林 成彬氏

〈協力会員〉

田中伸明氏

◎計報

岩間重雄氏（97歳）

令和6年1月8日逝去

謹んで哀悼の意を表します

同好会だより

〈俳句会〉

毎月第2水曜日午後1時から、オンライン（ズーム）での俳句会を開催しています。馬場由紀子先生のご指導はわかりやすく和気あいあいとしています。未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

〈謡曲会〉

松木千俊先生のお稽古は一人ずつの個人指導です。未経験者も大歓迎ですので、興味のある方は事務局までご連絡ください。

みんなの写真館

富士山頂より

（表紙）

この写真は2019年8月4日早朝の富士山山頂です。前日の午前11時に、山梨県側の吉田ルート（標高約2300イン）五合目（標高約2300）から登り始め、山小屋で休んだあと、夜明け前の4時に山頂に着きました。素晴らしい天気にも恵まれ、念願のご来光を迎えました。富士山のご来光は、言葉にできないほどの美しさで、日本一の高さから雲海を眺める壮大なパノラマも、想像を超える神秘的な景色です。画面中央部分の三角の影は神聖な富士山が雲海に投影された姿です。まさかの、雲海と富士山のツーショットという絶景です。一生に一度でいいから富士山頂のご来光を見てみたいという夢を叶えた瞬間でした。（姜晋如）

濟南・靈岩寺

（表4）

中国への仏教伝来の地は長安、紀元前2世紀頃だ。濟南から車で約50分の泰山山脈西北麓にある靈岩寺は北魏（約1600年前）の法定禪師が創建した寺で、中国四大名刹の一つである。千仏殿は唐代の建物で、宋代に修復された泥塑の羅漢像は1000年を経ても色鮮やかに保存されている。宋代に建立された仏塔・辟支塔はレンガ積み、高さ55・8メートル、お寺のランドマークだ。鎌倉末期の日本僧・古源邵元の石碑があると、1986年の参観後に知り、2019年に再び訪れた。碑文の判読は難しいが、住職の説明によると碑文には、古源邵元が長安に行く途中に立ち寄ったと記されており、今、日中友好のシンボルとして有名になったとのこと。（新宅久夫）

2024年9月の行事予定

- 5日（木） 14：00 公開 第13回対面 & オンライン講演会
「変容するヨーロッパ政治とイギリス政治」
谷藤悦史氏（早稲田大学名誉教授）
- 10日（火） 14：00 謡曲会（松木千俊先生お稽古）
- 11日（水） 13：00 俳句会
兼題「秋の蠅」及び当季雑詠から5句を投句（8月末までに）
- 12日（木） 12：00 長寿祝賀会（於新橋亭新館）
* 会員で参加希望の方は、9月6日（金）までに事務局までお申し込み下さい。
- 20日（金） 14：00 公開【21世紀アジア塾】（対面のみ）
「政権構想に関わった御用政治記者の自己批判書を読む」
講師：矢吹晋氏（横浜市立大学名誉教授、当会学術顧問）
世話人：伊大知重男氏・村瀬廣氏（当会会員）
- 26日（木） 14：00 公開 第14回対面 & オンライン講演会
「命の贈り物～VISAS FOR LIFE」
杉原まどか氏（「特定非営利活動法人杉原千畝命のビザ」理事長）

9月の会議予定

3日（火） 13：00	国際交流委員会	19日（木） 15：30	広報委員会
10日（火） 13：00	環境委員会	25日（水） 13：00	東北委員会
19日（木） 13：00	理事会（第6回）	27日（金） 14：00	講演委員会

※下線は通常日程に変更あり。

【10月最初の講演会予定】

- 3日（木） 14：00 公開 第15回対面 & オンライン講演会
「失われた満洲民族の原郷と薩満の宇宙の時空を求めて」（仮題）
金大偉氏（映画監督、音楽家、画家）



みんなの 写真館



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)

<https://www.kokusaizenrin.com>